
とってもオモシロイ話し・・・

ペペDX

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とつてもオモシロイ話し・・・

【Nコード】

N5527I

【作者名】

ペペDX

【あらすじ】

呑気で何かが足りない家族と可哀相な作者自身の体験した半リアルな笑いありスリルあり感動ありの摩訶不思議なストーリー！。

(前書き)

母さんの一周忌の我が家の庭……

洋一

「クルミ(犬)おいで」

もう一年半になるのか、クルミが我が家に来てから」

樹里

「そつだよ」最初は母さんがクルミを連れてきたんだよ」

清

「優子は自分の死を悟って皆が悲しまないようにクルミを連れて来たのかもな」

クルミ

「ワン ワン」

「さて……どうするか……」

真剣な顔をして話し合う4人？
話しは4時間半ほど前……

雨の多い梅雨時の日曜日……

外は相変わらずの雨……

僕（洋一）

「風邪を引いちゃうから今日は辞めときなよ」

母（優子）

「大丈夫、今日はどうしても行きたい気分なの」

病弱でいつもは家に籠りがちな母が珍しく自分から散歩に出掛けた。

……

仕事休みの日曜だが

雨で大好きな魚釣りに行けず

暇を持て余し家でゴロゴロしていた父（清）と

彼氏と長電話している姉（樹里）を横目に

僕は新しく買い替えようと思っている車の頭金をどのように両親に出させようか考えを巡らし

（今日はあの籠りがちな母も散歩にでかけるほど気分が良さそうだし、もしかしたら上手く行くかも）

・・・と勝手な思いでタイミングを見計らっていたのだが

何時までたっても母が帰って来ない。

時計を見ると母が出掛けて4時間も経過しているではないか！
病弱な母が心配になった三人・・・二人は

父

「洋一！

何かあったのかもしれない！

洋一は近所の公園を見に行ってくれ！

父さんは駅前の方を見に行くから！」

普段は呑気な父のこの母に対しての心配様に驚きつつ

僕

「分かった！急いで用意する！・・・樹里姉は母さんが帰ってきたら携帯に電話してよ！」

姉

「大丈夫だって、デパートにでも行って買い物してるんじゃない」

この呑気さは両親譲りなんだなあ・・・

つと我が姉ながらも感心とムカつきを覚えたのだった。

父と玄関を出ようとしたその時

ガラガラガラ

母

「ただいま」

呑気な声で母が帰ってきたのだった。

こっちの心配も知らず呑気な母が

母

「どうしたの慌てて？どこか出掛けるの？」

そら見ろと言わんばかりにケラケラと笑い転げる姉・・・

僕と父は呆れて言葉も出せず立ち尽くす・・・

母

「何？どうしたの？」

父は半分拗ね気味で無言のまま居間に行ってしまいテレビの前で踏ん返り返ってしまった。

僕は

（あゝああ今日は頭金の話しは出来ないなあ）

つと考えつつ母に事情を説明し

何もなかったのならまあ良しだと母に話しながら居間へと向かう・・・

・つが母が玄関から入って来ない。

どうしたのかと思い聞いてみると

母

「あのね、何もなかった訳ではないんだけど……この子が……」

「

母の胸元を良く見ると何かがモゾモゾと動いているではないか！
我が家に新しい家族を連れ帰ったのだ。

それは酷く汚れた姿で怯えながらも牙を剥き悲しい瞳をした真っ黒な仔犬だった……」

その仔犬を見た私達は口々に

父

「飼うのは反対だぞ！」

姉

「家にはマリー（猫）がいるしい犬は苦手だなあ」

僕

「誰が面倒みるの？僕は面倒だなあ」

家族中誰もが仔犬の容姿、態度に受け入れる言葉を発する事はなかった。

しかし母は

母

「うん、何となく皆の返答は分かっていたんだけど
どうしてもこの子は見捨てられず
家の前まで来たんだけど
どうしようか考えていたら3時間も過ぎてたの……」

一同

・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

呆れたものだ・・・散歩は1時間で終わって家の前に到着するも
この雨の中3時間も考えてるなんて・・・
こればかりは流石の姉も声すらでない（笑）

困った父・姉・僕

何を考えているのか？笑顔の母

怯えながらも牙を剥く汚い仔犬

緊急家族会議が始まった！！！！

議題

仔犬を飼うか？

父・姉・僕・四六時中僕のベットを占領し眠り続けるマリー（猫）
vs 母・仔犬

一分経過

二分経過

三分経過

四分経過

五分経過

・・・・・・・・終了

結果発表

勝者・・・・

母・仔犬

「何とかなるでしょ？」

の母の一言で皆さん同意・・・・

(注) 僕の意見は求められる事なくスルー。

緊急家族会議も5分で終わるなんて本当に呑気と言っのか何も考え
てない家族だ。

この一家は大丈夫なのだろうか・・・
新しく家族の一員として加わる事になった仔犬をまずはお風呂に入

れる事になったのだが、誰が入れるのか？

三人

「洋一入れてきなさい」

「名前は決めとくね」

「出たらお風呂を洗っておいてね」

……お父様、お母様、お姉様……さっきの私の反対した時の僕の言葉を皆様はもうお忘れになられたのですか？

……悲しい限りです、神様この呑気で勝手な人達に天罰を！
そして可哀相な私にご褒美に頭金を

などとブツブツ言いながらもお風呂に向かう僕と僕の腕に爪を立てながら唸る仔犬。

腕が痛い！

僕に唸りながらも僕にしつかりと爪が腕に食い込むほどしがみつくこの仔犬を好きになる事は出来るのだろうか？

それでも言われた通りお風呂に向かうのは家族で1番年下の僕の立場の辛いところだ。

とりあえず体の色からクロ（本名は決められてしまうのでもちろん仮名）と呼ぶ事にした。

気を取り直して自分自身も湯舟に入り鼻歌を歌いながクロを洗っている

ななな何と！！！

汚れて黒くなっていただけで実物は

真っ白！

頭も白い！

顔も白い！

鼻も白い！

体も白い！

前足も白い！

後ろ足も白い！

尾も白い！

.....

顔も白い！

体も白い！

尾も白い！

尾もしろい！

おもしろい！

オモシロイ！

オ・モ・シ・ロ・イ

オモシロイ話でした
() () ププツ

後書き

読みづらい文章で申し訳ありません。

感想・笑点座布団をお待ちします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5527i/>

とってもオモシロイ話し・・・

2011年1月14日04時24分発行